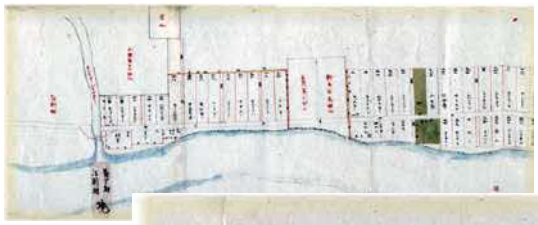
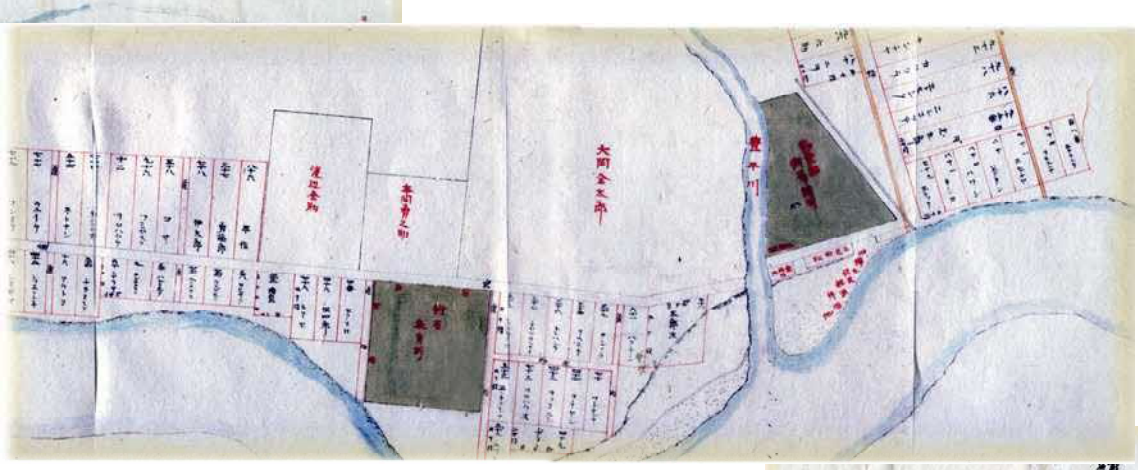
北海道立文書館展示資料解説

アイヌの人びと

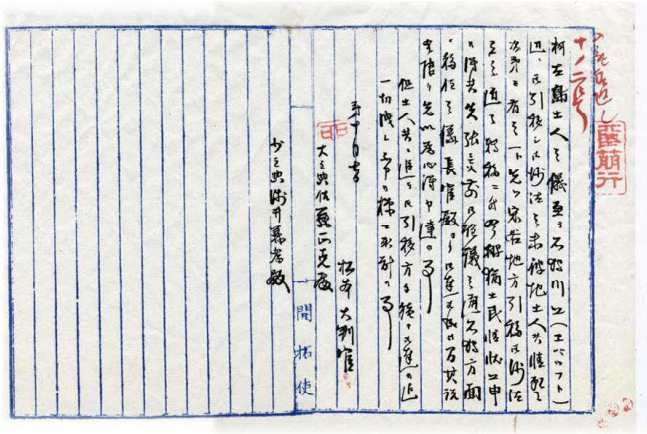
明治2年に開拓使が置かれ北海道の開拓が進むとアイヌの人びとの生活は大きく変わっていきました。近代的な土地制度により土地の私有権が設定されたり、川上での鮭漁や毒矢、仕掛弓が禁止され、生活圏が狭められた上、これまでのような自由な狩猟も困難となりました。さらに幕末からの同化政策も強化され、アイヌの人びとは民族固有の文化を失いかねない厳しい状況にありました。

また明治8年にはロシアとの間に樺太千島交換条約が結ばれ、ロシア領となった樺太からアイヌが北海道に移ってくることになりました。樺太の対岸である宗谷への移住を希望する彼らに対し、開拓使では札幌に近い対雁（ついしかり）（江別市）へ無理やり移住させ、慣れない土地で病気などにより死者が多数出るようなこともありました。

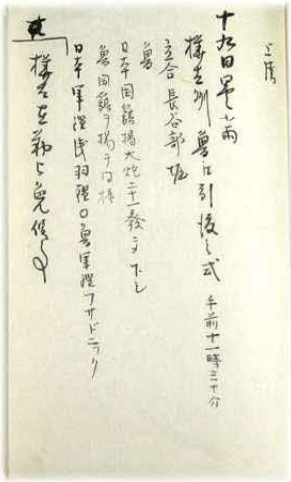




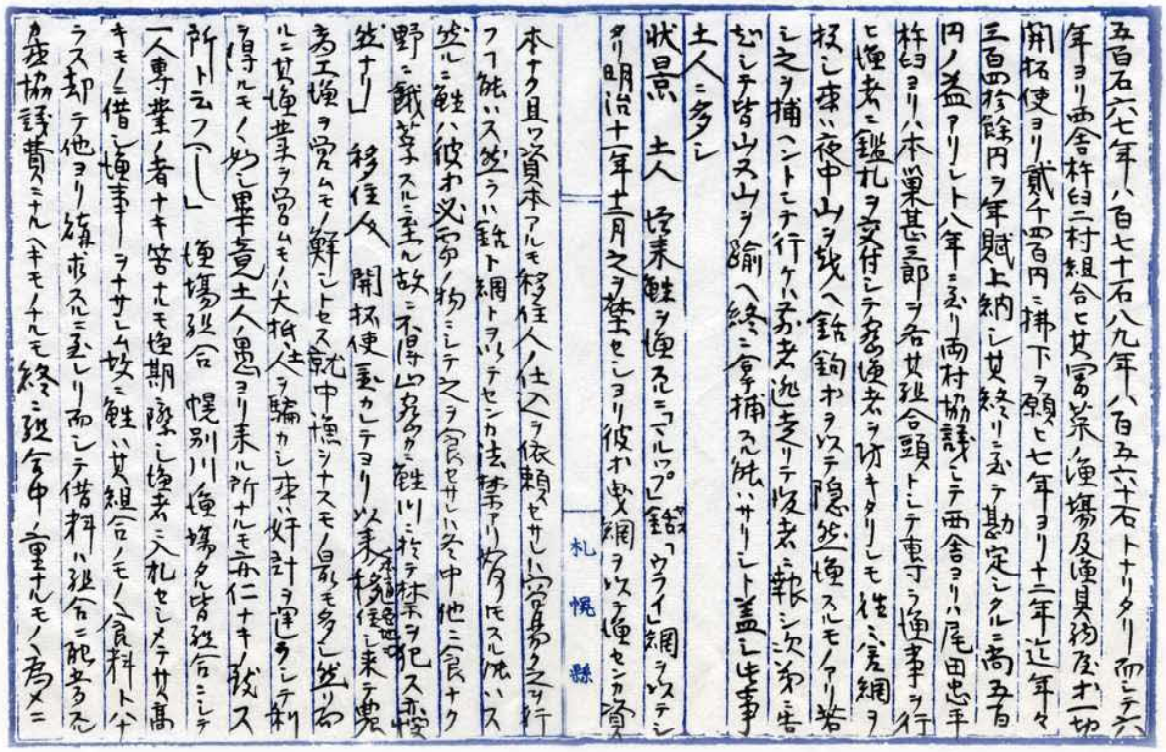
▲対雁旧樺太移民耕地願地略図（『勧業課公文録』簿書3099）



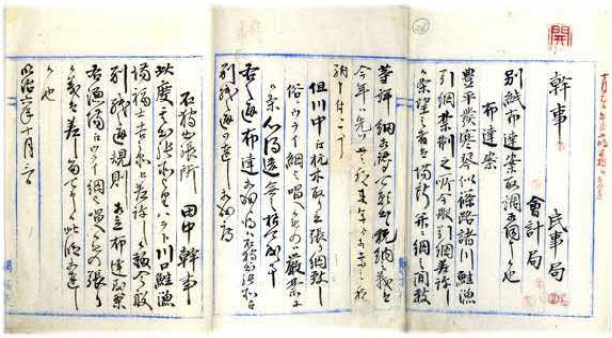
▲宗谷定住希望の樺太アイヌ対雁移転方針
（『樺太土人御移転一件一纏』簿書1274）



樺太引渡を伝える日誌　明治8年9月19日（三田村多仲文書　B4-10）▶



▲アイヌの人びとの窮状について（十河定道　明治16年）
（『復命書』簿書7892）



▲鮭漁禁制の布達案（『使布達』簿書198）

▲蝦夷産業図説（旧記1691/1695）

・・・

状景　**土人**　従来鮭ヲ漁スルニ「マルップ」銛（ヤス）「ウライ」網ヲ以テシタリ明治十一年十二月之ヲ禁セシヨリ彼等曳網ヲ以テ漁センカ資本ナク且ツ資本アルモ移住人ノ仕込ヲ依頼セサレハ容易ク之ヲ行フコト能ハス然ラハ銛ト網トヲ以テセンカ法禁アリ如何トモスル能ハス然ルニ鮭ハ彼等必需ノ物ニシテ之ヲ食セサレハ冬中他ニ食ナク野ニ餓莩スルニ至ル故ニ不得止密カニ鮭川ニ於テ禁ヲ犯ス亦憫然ナリ」　**移住人**　開拓使置カレテヨリ以来本道各地ニ移住シ来テ農商工漁ヲ営ムモノ鮮シトセス就中漁ヲナスモノ最モ多シ然リ而ルニ其漁業ヲ営ムモノハ大抵土人ヲ騙カシ本ハ奸計ヲ運ラシテ利ヲ得ルモノヽ如シ畢竟土人ノ愚ヨリ来ル所ナルモ亦仁ナキノ致ス所ト云フヘシ」　**漁業組合**・・・

【北海道立文書館が所蔵するアイヌ関係文書】

箱館奉行所、開拓使、北海道庁文書の中に調査・統計類、給与地関係、旧土人保護関係の文書があります。また、開拓使が執務の参考のために集めた江戸時代からの蝦夷地探検の記録、紀行文（旧記）の中にアイヌの風俗を描いたものが多く残っています。